

第3代会長平田東助と小林源蔵総務部長の活躍

第3代平田会長の任期は、明治40（1907）年から大正10（1921）年までの15年間、この間に寄宿舍興譲館の開館、奨学貸与金の開始、米沢有為会の社団法人化、第2次拡張といった大事業が展開されました。平田会長のもとで、小林源蔵総務部長（鉄道院理事、後に衆議院議員）が実務を指揮したことが記録されています。



第3代会長 平田東助
(1849-1925)

米沢出身。官僚から政治家の道へ。
伊東忠太の叔父にあたる。当時は、
現職の内務大臣。

社団法人化

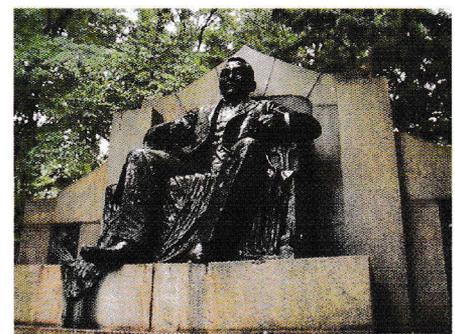
明治41年の総会において、有為会を社団法人と為すこと、その手続きを平田会長に一任すること、従来の役員を法人の役員とすることが議決され、法人化が進められました。翌42年の総会で定款草案が議定され、12月に文部省に出願、小松原英太郎文部大臣の許可を得て、翌43年1月7日に登記を完了し、公益法人となりました。

第2次拡張

明治25年実施された第1次拡張では、事業拡張のため募金活動が展開され、次いで、明治43年から第2次拡張が実施され、大規模な募金活動が行われました。多くの会員からの寄附金が集まり、寄宿舍設立の負債や、奨学金貸与の基金にあてられました。

平田東助像が米沢に里帰り

産業組合の創設および育成に功績があった平田に対し、全国250万の産業組合員と有志寄附金により、大正10（1921）年に、東京都千代田区の九段坂下に平田東助像が建設されました。像の制作は、山形市出身の彫刻家新海竹太郎、台座は東助の甥にあたる建築家伊東忠太の設計です。



平田東助像 米沢市提供

皇居を見守るように座していましたが、平成8（1996）年、に戦没者追悼施設建設のため、東京都町田市のJA全国教育センター敷地に移設されました。東京都の緑地公園計画に伴い、東助像は郷里米沢に寄贈され、今年の8月末に米沢市すこやかセンター内に移設されます。